

## COC+事業における特色人材育成部門まちづくりWGの活動報告(その2)\*

吉村 朋矩<sup>\*1</sup>, 伊豆蔵 庫喜<sup>\*2</sup>

### Report of Educational Activity for Distinctive Human Resource Development in Community Planning Working Group of COC+ Program (PART 2)

Tomonori YOSHIMURA<sup>\*1</sup> and Kouki IZUKURA

<sup>\*1</sup> Faculty of Engineering, Department of Architecture and Civil Engineering

MEXT (Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology) is being conducted program for promoting regional revitalization by universities as centers of community (COC+ program) at present. The purpose of COC+ is to make a flow to the regional of "core person" for the regional revitalization. This program is supporting the distinctive university. It was also adopted by COC+ in Fukui prefecture. All four-year university in Fukui prefecture have been tackling COC+ program. Therefore, We'll make a report of its past activities in the community planning working group for fiscal year 2017. Especially introduce the practical workshop worked especially in Takahama town, Fukui Prefecture.

**Key Words** : COC+Program, Human Resources Development, Regional Revitalization

#### 1. 福井県内でのCOC+の取り組み

福井県内の全ての4年制大学(福井大学, 福井県立大学, 福井工業大学, 仁愛大学, 敦賀市立看護大学)が連携する5大学連携事業として「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+: Centers of Community)」に採択され, 「ふくいCOC+事業推進協議会」が設置されている。筆者らは, 教育プログラム開発委員会特色人材育成部門のまちづくり分野ワーキング(以下, まちづくりWGという。)に所属している。まちづくりWGは, 特色人材育成部門のワーキングの中では唯一5大学が協働で運営している組織である。

そこで本稿では, まちづくりWGが取り組んできた内容を報告するとともに, まちづくりWGでの議論の活性化ならびに活動内容の深化を図るために本学において筆者らが独自に取り組んできた内容について報告する。特に, 2017年度まちづくりWGで主に取り組んだ福井県高浜町でのまちづくり実践ワークショップおよび, 福井県外の大学等で先駆的に学生活動を実施している地域にてフィールドワークを実施した内容について紹介する。

#### 2. ワーキングの構成員とこれまでの取り組み

##### 2.1 構成員について

まちづくりWGは, 各大学の教員1名, 事務職員1名で基本的には構成されている。福井大学については, 事務職員は在籍しておらず, 学内のWGメンバーが必要に応じて参加するといった形態がとられている。2017年度より仁愛大学の早川公先生をお迎えして, 幹事校の福井大学の野嶋慎二先生を筆頭に9名で構成し, まちづくりWGの活動に取り組んでいる。また, 構成員は建築・土木, 都市経済, 看護, 社会科学を専門としており, COC+まちづくり分野WGでの詳細な役割については2016年度の報告<sup>(1)</sup>を参考にされたい。

\* 原稿受付 2018年2月28日

<sup>\*1</sup> 工学部 建築土木工学科

<sup>\*2</sup> 大学事務局

E-mail: yoshimura@fukui-ut.ac.jp

## 2.2 これまでの取り組みについて

まちづくり WG では、これまでに特色人材育成部門の全体会議や事業成果報告会での発表、2017年10月に開催された考福塾でのまちづくり WG 活動紹介の発表、路地祭実行委員会への参加を含め Table.1 に示すよう、2017年度には15回に亘り活動を行っている。WG 会議については、2017年5月に開催された第3回特色人材育成部門の全体会議での会議から現在までにメール審議での会議を含めて5回開催している。さらに、5大学の学生、教職員が連携するとともに、福井県高浜町の協力を得て、まちづくり実践ワークショップを2017年9月に開催している。その他、工大独自の取り組みとして、実践まちづくりワークショップでの企画実施に関わる先進事例地へのフィールドスタディを実施した。主な取り組みについては、次章以降に述べる。

Table.1 まちづくり WG での取組み（2017年度）

年度	回数	日時 / 場所	特色人材育成部門	WG会議	まちづくり実践WS
2017年	1	4月5日（水） / 高浜町和田地区			第1回 路地祭実行委員会
	2	5月12日（金） / 高浜町和田地区			第2回 路地祭実行委員会
	3	5月12日（金） / 福井工業大学	第3回(平成29年度第1回目) 特色人材育成部会全体会	第1回 まちづくり分野WG	
	4	6月7日（水） / Fスクエア（大学連携センター）		第2回 まちづくり分野WG	
	5	6月9日（金） / 高浜町和田地区			第3回 路地祭実行委員会
	6	7月7日（金） / Fスクエア（大学連携センター）		第3回 まちづくり分野WG	
	7	7月14日（金） / 高浜町和田地区			第4回 路地祭実行委員会
	8	8月10日（金） / 高浜町和田地区			第5回 路地祭実行委員会
	9	9月5日（金） / 高浜町和田地区			第6回 路地祭実行委員会
	10	9月6日（水） / Fスクエア（大学連携センター）		第4回 まちづくり分野WG	
	11	9月13日（金） / 高浜町和田地区			第7回 路地祭実行委員会
	12	9月18日（金） / 高浜町和田地区			『第9回 和田de路地祭』で COC+企画の実施
	13	9月22日（金） / 福井工業大学	特色人材育成部会 事業成果報告会		
	14	10月21日（土） / アオッサ	考福塾		
	15	12月（メール連絡での審議）		第5回 まちづくり分野WG	

## 3. まちづくり実践ワークショップの実施

各大学の専門分野や特色・強みを活かし、実践的なまちづくりを行うことを目的に「まちづくり実践ワークショップ（以下、実践WSという.）」を2016年度に引き続き実施することとした。昨年同様、2017年9月に開催される「和田 de 路地祭（以下、路地祭という.）」と同時に開催することを第1回目まちづくり WG 会議で決定した。2017年6月7日の第2回まちづくり WG 会議は、構成員の他に本学の学生7名を含み5大学の学生18名が参加し、第1回目となる学生会議を開催した。内容は、2017年度の実践WSへの参加者の顔合わせとCOC+とは何か、実践の場となる福井県高浜町和田地区で開催される和田 de 路地祭とはどのような祭なのか、昨年度までの活動と今年度の方向性について紹介・確認した。その後、グループ分け（空店舗活用、空民宿活用、路地活用）を行い、実施内容に関する約30分のワークショップを実施した（Fig.1, Fig.2）。



Fig.1 第2回まちづくり WG 会議の様子①

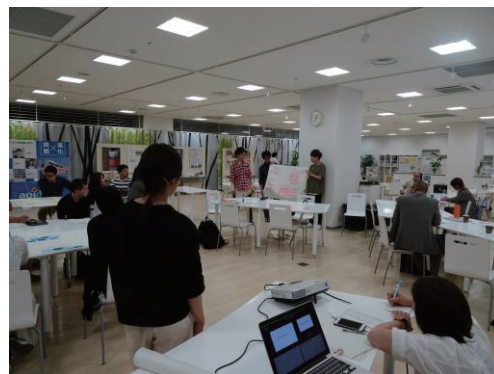


Fig.2 第2回まちづくり WG 会議の様子②

第3回まちづくりWG会議では、第2回まちづくりWG会議でのワークショップやその後の教職員によるアドバイスを踏まえグループ毎（旧カミヤ活用、中山邸活用、浦和田地区での実施）に検討を重ねてきた企画をそれぞれのグループが提案を行った。提案を行うに当たっては、路地祭の実施目的である「和田の景観資源を守り育てていくために、住民が日々の暮らしの中で景観資源を活用し、その魅力を実感してもらうこと」を基軸として、①和田地区の景観・環境の魅力を再発見し、発信していくこと、②地元住民同士の交流・人材発掘、③移住・定住の促進、④高浜の素晴らしさを子どもたちに継承していくこと、⑤空き民宿（既存ストック）の活用といった目標を共通認識として全てのグループが提案を行っている。

① カミヤ旧店舗（空店舗）活用グループ

代表の仁愛大学4年生の河合祐和さんが発表し、COC+連携拠点構想や案内所機能、子ども向け広場、ワークショップ、ライブ配信企画、ガイドブックの作成やテーマソングの作成についての提案があった（Fig.3）。

② 中山邸（空民宿）活用グループ

代表の福井工業大学4年生の山田将大さんが発表し、昨年度に引き続いてのサイクリスト向けの宿泊施設としての内装の改修を行うとともに、外構（庭）の改修についても併せて実施することや、カフェ機能の向上、サイクリングやTシャツづくりなどのワークショップ開催の提案があった（Fig4）。

③ 路地（浦和田地区）活用グループ

代表の敦賀市立看護大学3年生の本田ゆかりさんが発表し、路地の特性を活かしたスタンプラリーの実施やポストカードの作成、竹を使った障害物競走などの提案があった（Fig.5）。

第4回まちづくりWG会議では、実践WSの企画について最終プレゼンを各グループより行った（Fig.6）。最終プレゼンで教職員より指摘のあった内容を修正し、第7回目の路地祭実行委員会で各グループの代表が発表し、地域住民の方々への賛同と理解を深めた。それらの結果、各グループで次の企画を行うことを決定した。

① カミヤ旧店舗（空店舗）活用グループ

デザインコンセプトを「海辺のおしゃれ男、黒部達也の独り暮らし」として、おしゃれで、スタイリッシュで、写真映えするようなものが好きな海辺に住むおしゃれな20代の男の独り暮らしの部屋を想定して内装を改修する。企画内容としては、COC+連携拠点構想や案内所機能、チェキ体験、フォトコンテスト、動画上映やライブ配信、テーマソングの作成を行う。

② 中山邸（空民宿）活用グループ

「つながりの場、中山邸」をコンセプトに昨年度に引き続いてのサイクリスト向けの宿泊施設としての内装の改修を行うとともに、外構（庭）の改修についても併せて実施することや、カフェ機能の向上、Tシャツづくりなどのワークショップを開催する。

③ 路地（浦和田地区）活用グループ

「路地で人をつなぐ浦和田」を企画コンセプトとし、路地の特性を活かした路地美術館、簡単体力測定を実施する。



Fig.3 カミヤ旧店舗の企画発表

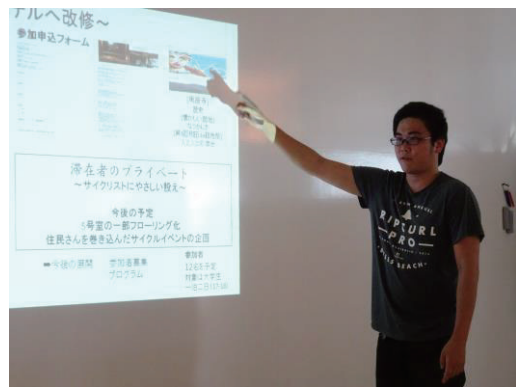


Fig.4 中山邸の企画発表



Fig.5 路地・浦和田での企画発表



Fig.6 第4回まちづくり WG 会議の様子

9月17日、18日に開催される予定の和田 de 路地祭での企画実施に向けて、宿泊期間が長い学生は約1週間、短い期間でも4日間程度、和田地区に宿泊しながら、地域住民の方々とともに当日までの準備を進めた。17日は台風の影響で全ての企画が中止となった。18日の開催に向けて17日には学生や地元の方々と最終確認をして準備を進めた。18日には実施できたが、路地活用グループの企画については、台風の影響により場所を施設内（空店舗の旧カミヤ）に変更し実施することとなった（Fig.7, Fig.8）。その他のグループは予定通りの企画を実施した（Fig.9, Fig.10）。



Fig.7 路地活用企画の様子①



Fig.8 路地活用企画の様子②



Fig.9 「場」をつなぐライブ配信の様子

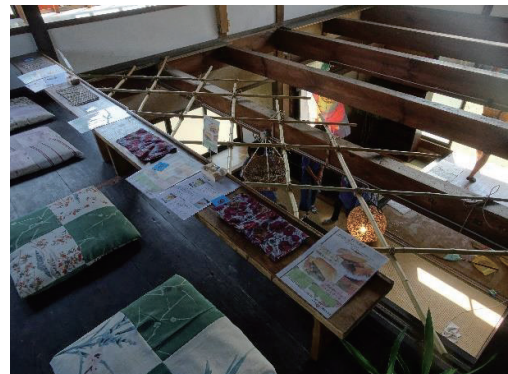


Fig.10 空民宿：中山邸でのカフェ

さらには、18日の夜に開催された長街宴（Fig.11）において、当日までに和田地区で測定した数値（20.4mag/arcsecond<sup>2</sup>）に基づき、星空の美しさについて学生が紹介した。和田地区の星空は地域資源として新しい価値を見出す可能性を秘めていることを示すとともに、ブルーフラッグ認証の若狭和田浜や既存の地域資源と

連携することで地域の新しい魅力を付加することが期待できることを高浜町町長や和田公民館館長，多くの住民の方々に説明した（Fig.12）。



Fig.11 長街宴の様子



Fig.12 地域資源としての星空の可能性に関する報告

実践 WS を終えて，参加学生より下記の意見が挙がった。

- ① 今年は他大学との連携がしっかりと取れていて，自分の大学では出ないような考えを聞いたので新しい発見が多かった。
- ② いろんな専門分野や考えをもった人たちが集まっていいものを作ろうと団結すると新しいことがどんどんできると感じた。自分がその活動の1人になれたことがとても嬉しい。これから，より多くの人に参加してもらうため活動の内容や新しいことをする素晴らしさを発信していきたい。
- ③ COC+の事業として軌道にのったような気がする。ただ，学生代表の負担が大きすぎるのと次の世代が少なく，後継者が育たないなどの問題があるので，もう少しちゃんとした組織作りをしないと次年度以降つながっていかないと思う。
- ④ それぞれの特徴を生かす活動の中で，他者の不足分をもう1人が付け足したり，そういう今後絶対大事になってくることを学ばせてくれたCOC+の活動に感謝しています。
- ⑤ こんなに密に住民さんと関われる機会がある和田 de 路地祭はとても貴重だと思うので，この先もずっと学生に関わってもらってたくさんのことを学んで欲しいです。また，ここで築いた学生同士や住民さんとの仲は一生ものとおもうので，人との関わりを楽しみながら信頼関係を築いていって欲しいです。
- ⑥ 他大学と共にプロジェクトを行うと，様々な視点からの意見と各大学の性格がよく働くのでとてもいいものができる。今後はプロジェクト以外でも交流できる機会が増えるといいと思う。

さらに，実践 WS を通して身に付いたと思う力（Fig.13）について，意見の違いや立場の違いを理解する力（柔軟性）が 63.6%と最も高い割合であった。続いて，他者との豊かな関係を築く力（コミュニケーション力）が 59.1%，自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力（情報把握力）と相手の意見を丁寧に聴く力（傾聴力）は 54.5%であることが分かった。論理的、創造的のものごとを考える力（計画遂行力）や目的を設定し確実に行動する力（実行力），社会人としての常識をわきまえて、主体的に行動する力（市民力）が身に付いたと思う割合は低いことが見受けられた。

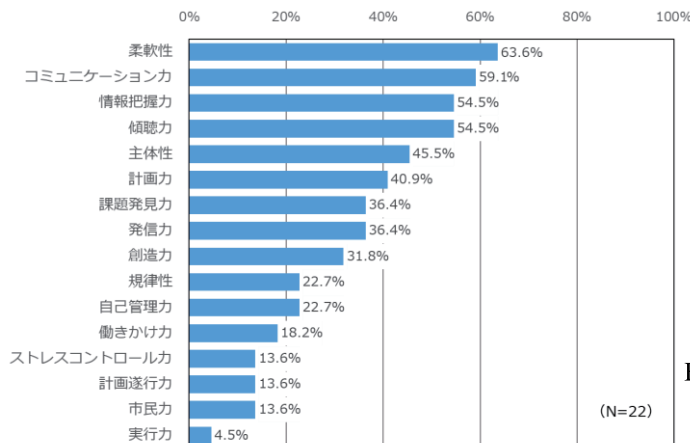


Fig.13 参加学生が実践 WS を通して身に付いたと思う力

#### 4. 実践WSの企画内容の充実に向けた先事例調査

##### 4.1 愛媛県今治市・広島県尾道市（しまなみ地域）

平成29年7月22日（土）から7月24日（月）までの3日間、サイクルシティの先進事例地であるしまなみ地域でサイクリスト向けの環境整備についてフィールドサーベイを実施した。これらによって、実践WSでの企画内容の向上につなげるものである。主に昨年度に引き続き本学学生が提案している空き民宿を活用したサイクリスト向けの拠点施設や、自転車での移動による周辺観光施設へのつながりの検討について先進事例地でフィールドスタディしたことで、実践WSでの空き民宿再生企画（旧中山邸活用）の方向性やコンセプト、高浜町和田地区にふさわしい施設の在り方などに関する検討事項について見出すことができた。



Fig.14 通行空間・サイン等の利用環境調査



Fig.15 旧和泉家別邸改修の見学とレクチャー

##### 4.2 三重県いなべ市

平成29年11月13日（月）から11月14日（火）の2日間、全国的なサイクルイベントを実施し、地域活性化を促進している三重県いなべ市においてフィールドサーベイを実施した。まず、「ツアーオブ・ジャパンいなべステージ」の公式コース等のいなべ市内のサイクルロードのサインのデザインや設置状況について調査した（Fig.16）。つぎに、いなべ市サイクルツーリズム実行委員会事務局を兼務されている田中国大氏へのヒアリング調査を行うとともに、サイクリスト向けのおもてなし拠点についての調査を行った（Fig.17）。阿下喜の旧旅館をリノベーションして2016年11月に喫茶店&居酒屋として再生した施設の「上木食堂」を訪問し、実践WSでの空民宿の再生計画とサイクリストへのおもてなし施設としての地域拠点機能の在り方について検証することができた。



Fig.16 サイクリングコースのサイン調査



Fig.17 サイクリスト向けのおもてなし施設調査

#### 5. まとめ

COC+まちづくり分野WGの活動を通して、「まちづくりを担う人材の育成」とりわけ次代を見据えた地域創生と地域コミュニティを担うことの出来る人材育成を目指している。具体的には、①学生が地域の課題を理解したうえで、地域課題解決に資する人材の育成、②生涯にわたって主体的に学び続け、多様な人々と協働し新たな価値を創造することの出来る人材の育成といった2点の人材育成に努めるとともに、学生の地域での学びへの動機

づけの創出を今後もより一層図りたいと考えている。また、本学学生の工学基礎力・人間力はもとより、情報収集分析能力、企画力、実践力等のスキル向上を目指したい。さらには、福井大学をはじめ県内大学との連携を強めまちづくり WG としての取り組み内容や課題を整理したうえで、実践的にまちをフィールドとして学生たちが学ぶことの出来る環境を創出したいと考えている。

実践 WS の開催に向けて、先駆的な取り組みを行っている地域で実践的に活動している方々との交流を通して、学生自らが学ぶことによって学生のさらなる意識向上、リーダーシップの向上を目指したい。さらには、ふくい地域外で取り組んでいる学生とも交流を促し、特に本学学生のプレゼンテーション力、企画力を深化させる試みを 2018 年度にも実施したいと考えている。

### 謝 辞

COC+まちづくり分野 WG での活動に際し、WG 幹事である福井大学の野嶋慎二教授をはじめ、各大学の教職員の方々、高浜町の方々に多大なるご支援・ご協力していただきました。ここに記して謝意を表します。

### 文 献

- (1) 吉村 朋矩, 伊豆蔵 庫喜, “COC+事業における特色人材育成部門まちづくり WG の活動報告（その1）”, 福井工業大学研究紀要, Vol.47 (2017), pp.343-348.

(平成 30 年 3 月 31 日受理)